

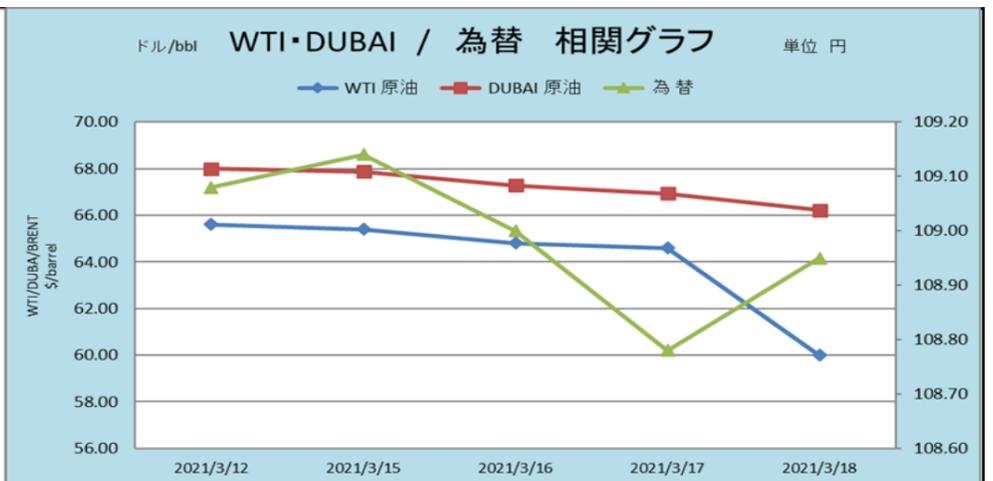
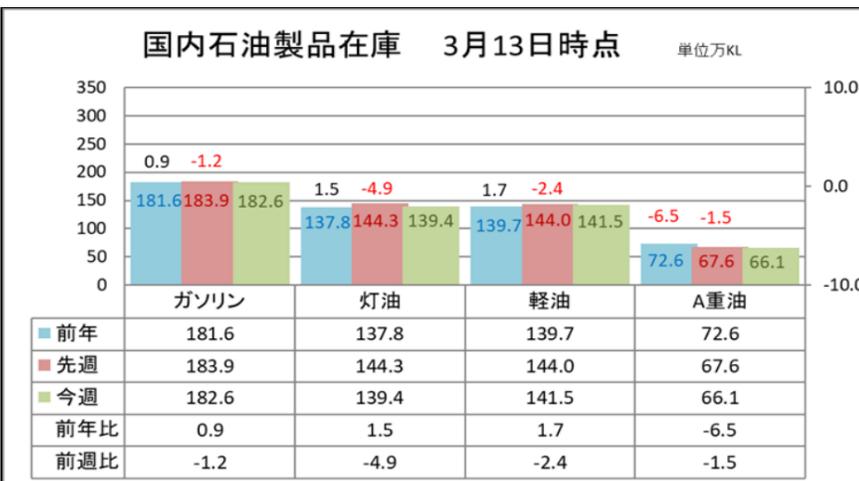
イデックスオイルレポート ~For a week~

2021/3/19作成 (株)新出光

【概況】 <ワクチンへの不透明性や原油相場の高値警戒感から下落>

- 12日、石油輸出国機構(OPEC)は11日に公表した月報で、新型コロナウイルスの影響が薄れる今年下半期に石油需要が回復するとの見通しを示し、通年予想を前月から小幅に上方修正しました。しかし、移動規制によって、年内の需要はなお抑制された状態が続くと分析しています。一方、米国では、前日に大型の追加経済対策法が成立したほか、コロナワクチンの接種も順調に進んでおり、景気の早期回復期待が拡大したため、方向感に欠けた取引となりました。
- 15日、中国国家统计局が15日発表した1~2月の国内製油所の原油処理量は前年同期比15%増の毎日1413万バレル、同期の小売売上高、鉱工業生産はそれぞれ33.8%増、35.1%増となりました。エネルギー消費大国である中国経済の新型コロナウイルス禍からの回復を示す結果となり相場も上昇しました。
- 16日、ドイツ、フランス、イタリアなどは15日、接種後に血栓ができる事例が複数確認されたことを理由に英製薬大手アストラゼネカが開発した新型コロナワクチンの接種を停止すると発表しました。これを受けて、域内の景気が遅れ石油需要が下振れするとの警戒感が広がり、利益確定の売りが先行しました。
- 17日、米エネルギー情報局(EIA)が午前5時に発表した12日までの1週間の原油在庫は、前週比240万バレル増と、市場予想の300万バレル増を下回りました。在庫積み増しは4週連続です。一方、ガソリン在庫は50万バレル増(予想は300万バレル減)、ディスティレート(留出油)在庫は30万バレル増(同340万バレル減)となりました。これをきっかけに需給不均衡懸念が再燃し、相場は一時WTI原油で63.60ドルまで下落しました。
- 18日、国際エネルギー機関(IEA)は同日公表の月報で、原油相場が「新たなスーパーサイクル(長期にわたる上伸基調)に入り、供給不足に陥る可能性がある」などとする市場の観測を否定したことで、一時、WTI原油で59.63ドルの安値を付けました。早期の需給均衡化への期待薄やドルの上昇に伴う割高感に圧迫され急落した形です。

3月19日 17:00現在 WTI原油 59.80ドル 為替 1ドル 108.73円



次回元売変動予測	3/25~ 元売変動予測	【製品卸価格】 <月間玉、原油相場とともに下げに転じる>
ガソリン	➡ -2.0~-1.5	<<今週>> 今週の元売り仕切り改定は「+2.5円」の値上げでした。仕切り改定のズレを利用した販売が残り、安値は月間リンク玉とコスモ玉の二種類となり、週決め玉は一時様子見となりました。金曜日分からはコスモ玉の安値も消えましたが、月間リンク玉は引き続き売りを強め、市況を形成しました。 <<3月20日以降>> 来週の元売り改定は現状の原油コストで「-2.0~-1.5円」の大幅値下げ予測です。原油相場が日に日に下がっていく中で、改定後月間リンク玉の販売が本格的になっており、次週の元売り仕切り改定も値下げが確実視され、値下げ販売をさらに後押しした形となっています。また油槽所でも価格が下がってきているために、連れて製油所価格も大幅値下げの動きとなっています。原油相場も最も下がったところからは、買い戻しの動きが広がっていますが、元の価格には戻りきらないところを見ると次週とその次の4/1以降の改定も値下げになる可能性がありそうです。月末に近づくにつれ市況は下がっていくことが予測されますが、買い手は下がってから仕入れようとするため、週末の出荷もそこまで芳しくはないようです。
灯油	➡ -2.0~-1.5	
軽油	➡ -2.0~-1.5	
A重油	➡ -2.0~-1.5	
LSA	➡ -2.0~-1.5	

※現段階の原油コストによる予想です。

【トピック】 <キグナス石油・三愛石油基地チャージコストアップとフォーミュラ指標変更>

キグナス石油、三愛石油は4月以降八潮を始めとした複数の基地チャージを値上げするという通知を各社へ行っており、キグナス石油が2月中旬、三愛石油からも今月各社へ通知しています。転送費の上昇が主因と考えられますが、全社一律の値上げ通知により、反発の声もにわかに聞こえます。また両社は価格フォーミュラの指標を4製油所平均価格へ統一するとの通知も行っており、これまでご当地ラックでの指標を採用していた業者からは賛否あるようです。そのため堺や千葉など月間平均玉が多く出荷される場所では、その他の基地よりもより市況が厳しくなる傾向にありましたが、指標の統一により、多少の格差緩和に繋がる可能性もあります。ただ、在庫玉や輸入玉については特に変わりませんで、油槽所についてはこれまで通り、状況によって安値が台頭し製油所も連れ安になる可能性は今後も十分考えられそうです。